

平成30年度

施策評価表(平成29年度の実績評価)

記入年月日

平成 30 年 6 月 1 日

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	大宮 利和
2-2	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度				
	生涯にわたって自ら学び、学びあっている。	市民	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197			
実績値					41,278								
見込値													
実績値													
生涯の意図			成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度			
						①日頃学習活動をしている市民の割合	%	目標値	25.1	25.1	25.1	25.1	25.1
						実績値	24.2						
						②公民館の年間利用者数	人	目標値	17,000	17,500	18,000	18,500	19,000
実績値		16,545											
③図書館・室の年間利用者数		人	目標値	28,100	28,600	29,100	29,600	30,100					
実績値		29,127											
目標値													
実績値													
成果指標設定の考え方	生涯にわたって自ら学んでもらう、学びあう成果指標は、①「日頃学習活動をしている市民の割合」をアンケートで調査。また、各社会教育施設の利用者数の把握。												
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①日頃学習活動をしている市民の割合は、市民アンケートより求める。②公民館の年間利用者数は、各公民館の利用実績の合計より求める。③図書館・室の年間利用者数は、真壁図書館・岩瀬中央公民館図書室・大和中央公民館図書室の利用者の集計より求める。												

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した	
背景・要因	日頃学習活動をしている市民の割合について、平成28年度は25.1%、平成29年度は24.2%と0.9ポイント減少している。日頃学習活動をしていないとの回答が平成28年度の71.7%に対し、平成29年度は73.4%と1.7ポイント増加している。学習活動において、市民に教えていると回答した方の割合が平成28年度14.3%に対し、平成29年度は15.3%と1.0ポイント増加している。公民館講座等の充実を図っているが、受講者の高齢化が著しい状況である。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	日頃学習活動をしている市民の割合について、目標値に対し0.9%減少している。公民館の利用人数については増加しているが、会議等での利用が多く、学習活動割合と利用人数については決して比例するものではない状況である。図書館(室)の利用人数は、目標値を若干上回っている状況である。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
○生涯学習・芸術文化活動の推進事業において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 ・桜川市市民文化祭 実行委員会を中心とし、市民すべての方が参加資格を有し、日頃の生涯学習活動(公民館講座、自主講座)・文化振興活動(文化協会、伝統民俗芸能)の成果を発表する場の提供を行った。	・桜川市市民文化祭への参加者については、広く公募しているが、出品者、参加者の高齢化、固定化が進んでいる。今後、若年層の参加意欲が向上するような内容を取り入れ、改善が必要である。